

特集

雪と暮らす ～雪の中の横手市～

よこて

市報

No.9
2006年2月15日号
2-15

目次 *Contents*

- 特集「雪と暮らす」 2
- 行政情報便
 - 地域協議会
 - 市長ですこんにちはほか
- 地域の話題
 - NEWS東西南北 14
- 情報information
 - お知らせ 16
 - いどばたプラザ
- 読者の声 20
- 思えば遠くへ来たもんだ 22
 - 高橋文子(太雄)
- 巧(たくみ) 23
 - 佐々木清男さん(十文字)
- 横手遺産 24
 - 銅錫杖頭(横手)

じだい つな われ じほう
次代に継ぐ我らが至宝

よこて遺産

THE YOKOTE HERITAGE
No.4

横手地域にある神明社の所有する銅錫杖頭は、長さ33・3寸の鍍金と呼ばれる金によるメックキを施した銅製鋳造品で、僧侶や修験者が持つ杖の上に装着されていたものです。

上部に五輪塔、輪内の中央両面に舟形光背を背負って蓮華座上に立つ阿弥陀如来・觀音菩薩・勢至菩薩の阿弥陀三尊を飾り、正面右側には2個、左側には3個の鍼が掛かり、筒身正面に「正元元年己未八月十五日」(1259年)、裏面には「信阿弥陀仏錫杖也」との銘文が刻まれ、使用者の手ずれの跡が残っている貴重な仏具です。

銅錫杖頭は、かつて旭岡山三井寺に所

有されていましたが、廃寺に伴い神明社に奉納され、平成6年には国の重要文化財(工芸)に指定されています。



[横手地域]

銅錫杖頭

国指定有形文化財(工芸)

冷たいけれど温かい
雪は人と人を繋ぐもの

「かまくら」と言えば横手市。横手市の知名度向上に大きく貢献しています。その楽しさ、美しさを知ってもらおうと(社)横手市観光協会では、横手の雪を詰め込んだ「ミニかまくらセット」を全国に向け発送しています。



水上様のお札やろうそくも付属し、本格的なミニかまくら

「ラバック」は雪のない
地方に雪の楽しさを伝
えたいとの思いから生
まれたものです。確かに
雪はやつかない存在です
が、一緒に暮らす仲間という
考え方で付き合ってみてはどうでし
ょう。「冷たいけれど温かい」、雪
は人と人を繋ぐものだと思います。

「ミニかまくらパック」は30枚4
万のからまくら型の発砲スチロールの
相に雪を詰め込めた商品。ろうそく
水木様のお札などが付属していく、
購入者はスーパーで中をくり抜き完
成させます。発売当初は全国から注
文が殺到し、追加予約を受けたほど
のの人気でした。現在は購入者の約7
割が地元の方で、ミニかまくらをお
孫さんなどに送っているようです。
元日は、鳳中学校の生徒さんが交流
のある奄美大島の中学校にからまくら
パックを送りましたが、中学校だ
りでなく、島民の皆さんのが
ほくらの到着を喜んでく

A portrait of Yamashita Ichi, a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is looking slightly to his left with a neutral expression.

平成14年8月、秋田県初の雪冷房公共施設として完成了あくら館。入り口正面にあるホールと隣接する児童文庫の計136m²に熱交換を行わず、直接冷気を送風する「全空気方式」を採用した雪冷房設備が導入されています。

雪を 汗 かす

しかし、クリーンな自然エネルギーを利用することによって、二酸化炭素を大幅に削減でき、地球環境にもやさしく、お金にはかけられないメリットがあります。あさくら館を利用される皆さんは、家庭用のエアコンに比べ風がやわらかいで好評です。

雪は天からの贈り物です。積極的に利活用することで、市民の皆さんとの雪に対する意識が少しでも良くなるや、雪を活かそうとする気持ちの一助になればいいですね。



毎年2月～3月にかけ雪入れ作業が行われます

雪と暮らす

合併後、初めて迎えたこの冬も
横手市はたくさんの中雪に包まれました
一年の約三分の一を雪と共に暮らす私たちにとって
雪とはどんな存在なのか
市民の皆さんに
雪との暮らしについて聞きました





農家の暮らしを支えた ミノ・ケラ作り

川津ヒサさん(増田)

な大きな民芸壁掛けも好評で、

正月前は各地域を行商して歩き、市場などに持つて行つて売り歩いた。ケラは冬場の貴重な収入源。雪をしのぎ、ケラで生活できました。

冬の間は隣家を順番にまわり、開炉裏を開んで、ケラを作つて会議でしたよ。とにかく、隣家で一緒に楽しみながらつくり、けど楽しかったよ」と当時を振

田の神を迎えると祈る

雪中田植え

照井重太郎さん(大雄)
橋本良太郎さん(大雄)

「雪中田植え」。雪の中に稻や豆穀を束ねたものを植え、その年の豊作を願う小正月行事。市内でも雪中田植えを行っている地域は数えるほどですが、大雄地区上丁地区では、この伝統行事を継承しています。その中心人物として、毎年準備にあたるのが照井重太郎さんと橋本良太郎さんのお二人。

「昔はどこの農家でもやっていたものだよ。戦後、少しずつやれなくなる農家が増えていってな。自分たちが食へるのに精一一杯だった時代だから、仕方なかつたんだよ」と話す良太郎さんは、上丁集落でもその灯が度は消えたものの、二人が復活させた経緯があります。

「毎年2月に行つてある春祈祷に合わせてやろう」という話になつて、今は旧暦にこだわらなかつたんだよ」と話す良太郎さんは、上丁集落でもその灯が度は消えたものの、二人が復活させた経緯があります。

「毎年2月に行つてある春祈祷に合わせてやろう」という話になつて、今は旧暦にこだわらなかつたんだよ」と話す良太郎さんは、上丁集落でもその灯が度は消えたものの、二人が復活させた経緯があります。

「毎年2月に行つてある春祈



田植えに参加する人がいるそうです。

そもそもなぜ雪中田植えが始まつたのか、その始まりは雪が降るこの土地柄に関係があるよう

です。

「田の仕事が一段落し、雪が降り始める神無月(11月)には、

田の神様が山に帰つて山の神様になると言われていてな、2月

の雪中田植えは田の神様を迎え

る儀式みたいなものだつたんだ

よ。山に帰る神様を大工や炭焼きなど「木」に関係する職の人

が山の神様として迎える。そし

て田の神様を農家が迎えるとい

うように、つながつていただん

だな。

今みたいに農業がたくさんあ

る時代ではなかつたから、みんなでもちつきをしたり、お酒を飲んだりする楽しみいろいろ

とを考えたと思うよ。そんな中か

が山の神様として迎える。そし

て田の神様を農家が迎えるとい

うように、つながつていただん

だな。

良太郎さんは、上丁集落でもその灯が度は消えたものの、二人が復活させた経緯があります。

「毎年2月に行つてある春祈

雪がたくさん降るのはやつぱり困る。難儀だもんな。でも雪がなければ米もあがらない。

雪の少ない年は、春先から収穫期が心配になるもんだよ。雪が少なくないと、田に張る水の心配をしなくてはならない。田にとつて大変な問題だな」と重太郎さん。

「頑張つて稲を育てあげた田人も、雪の降る間は体を休めるんだよ。英気を養うつて言うんだよ。英気を養うつて言うのかな。雪は天然のダムだから、山も田もいっぱいに水を吸つて、新しい稲作

りに備えるのだと思

う」と良太郎さん。

二人揃つて雪の必要性を語ります。

雪がなければ豊かな恵みもない。雪とともに生き、雪を活かし、暮らしの中に息づかせてきた先人の声を聞くことができました。

雪の降る季節でも、自分たちで楽しみを見つけるとの言葉に、寒さや雪に負けない先人たちの力強さを感じます。

現在も農業を営む重太郎さんと良太郎さん。お二人にとつて雪はどんな存在なのか

雪の降る季節でも、自分たちで楽しみを見つけるとの言葉に、寒さや雪に負けない先人たちの力強さを感じます。

雪がなければ米もあがらない。雪の少ない年は、春先から収穫期が心配になるもんだよ。雪は天然のダムだから、山も田もいっぱいに水を吸つて、新しい稲作

りに備えるのだと思

う」と良太郎さん。

二人揃つて雪の必要性を語ります。

雪がなければ豊かな恵みもない。雪とともに生き、雪を活かし、暮らしの中に息づかせてきた先人の声を聞くことができました。

橋本良太郎さん(左)と照井重太郎さん(右)。今年も間もなくやってくる雪中田植えの日を心待ちにしている様子です。



らす

り返ります。

戸波ケラは、今なお

その高度な技術を継承し、今

もケラを作り続けるヒサさん。

ケラ作りの本番は冬ですが、

材料となるミゲ(蓑笠)を夏の

土用に抜き取つて干す作業は、

とんどいなくなりました

あります。「今で

はケラを作る人はほ

とんどいなくなりました

が、私は作り続けますよ」とヒ

サさん。

「雪は確かに厄介ですが、い

ろんな生活の知恵を出し、

共に暮らしてきました

から、考え方や利用の

仕方が大事なんだと

思いますよ」と話

すヒサさんの言葉

には、長年共に生きて

きた雪に対する親しみが

感じられました。



雪を 楽しむ

かまくら



かまくら職人
藤谷芳蔵さん(横手)



30年以上かまくら作りに携わり、現在も農業を営む
傍ら雪まつりのかまくら製作や指導にあたる。平成
15年には文化振興に尽力された功績が評価され「雪
国マイスター」に選ばれる。



きれいに掘れたら…
穴をあけ、壁は80cmの厚さに掘ります

雪国秋田を代表する詩情豊かな冬の民俗行事「かまくら」
期間中は百を超えるかまくらと
無数のミニかまくらがまちを彩り
国内のみならず海外からも多数の観光客を幻想的な世界に誘います
四百年以上の歴史を持つかまくらは
その昔雪室を造り、松飾り、しめ縄を焼く行事と
鳥追の行事、それに水不足になやまされたため
「おしづの神さん」(水神様)を祭った行事とが一体になった
小正月に行なう伝統の行事です
雪の山をくり抜き雪室をつくり奥に水神様を祭り
お神酒、甘酒、お餅などを供えます
かまくらの御燈明が点ると
宵闇にはのぼると灯りが漏れ
かまくらの中では
周囲の白い雪壁に灯が映えて夜を明るく照らします

雪を運びかまくらを作った年もありました
ましたが、やはり大変苦労しましたよ。かまくらは雪国で生まれた文化ですから、そのかまくらを楽しみ、守っていく上でも雪はなくてはならない存在ですね」と話す藤谷さん。雪への親しみが感じられます。

「かまくらを守り育していく上で、若い世代の職人育成が必要だなど感じています。今年も4人が新たに仲間に加わりました
が、合併した今、横手地域以外の人にもかまくらづくりに参加してほしいですよ」とかまくらを全地域の行事として盛り上げていきたいという意気込みを語ります。

「夢は昔の二葉町のかまくら通りの復活」と言う藤谷さん。これからも夢のあるたくさんのかまくらが職人たちの手から生まれできそうです。

横手のかまくらを支えるかまくら職人。その艱労として、かまくら制作の指揮にあたるのが藤谷芳蔵さん(横手)。今年1月7日、福岡市で出前かまくらを成功させた職人たちは、休む間もなく、2月15日、16日のかまくら本番に向け、急ピッチの作業を続けています。

雪と共に生まれた風習を大切に育んできた横手市。その最前线にいる職人に、雪とかまくらへの思いを聞きました。

「かまくらをここまで大きなまつりに育てあげたのは、横手に住むすべての人々。市民の協力なくしては、かまくらは存在しない。横手を訪れたお客様が満足していただけるよう、丹精込めてかまくらを作っています」と藤谷さん。主役は市民と謙虚な姿勢で語ります。

「一年を通して、いつもかまくらのことばかり考えています。横手駅正面にかまくらが描かれた看板がありますが、そのかまくらが理想の形。いつもあのかまくらを思い浮かべながら、かまくらづくりにあたっているんですよ」と理想を追求する職人ならではのこだわりを見せます。

「雪が少ない年は、他県から

かまくらに
魂込めて

ひたすら踏み固めながら積み上げます





雪を 克服 服する

地域への貢献と冬場の体力づくりを目的に今年から除雪ボランティアを企画した増田高校野球部の皆さん。

「除雪ボランティアに参加できたことをとても嬉しく思います。今年は雪も多く、屋根から落ちた雪は固くて作業がやりにくかった。地域の人々に支えられている野球部だと思うので、野球だけでなく、このようなボランティア活動も含めて、皆さんの期待に応えられるよう頑張りたいと思います」。

増田高等学校 1年
野球部 永沢好竹さん



高齢者と環境への配慮 が克服のテーマ

「湯沢青年会議所へ所属し、環境運動推進委員会の委員長をしていました。当時、環境対策を取り入れた経営を開拓できないかと考え、現在の会社を設立しました。私も雪国で生まれ育った身



電気融雪機以外にも間伐材や廃材などの資源を再利用する薪ストーブも提供している



横手清陵学院高校 2年
バドミントン部長
柿崎拓磨さん

前身の横手工業高校から引継ぎ、除雪ボランティア活動を行う横手清陵学院高校バドミントン部の皆さん。

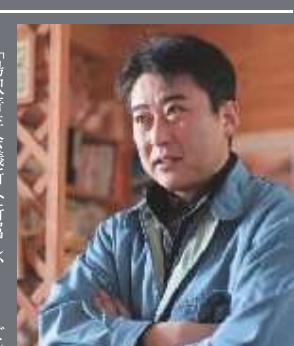
「除雪をしてると、住んでいる方々が寒い中でも家から出てきて礼を言ってくれる。喜ばれ、やってよかったと思う。筋力トレーニングにもなるし、なにより人の役に立つことができる。雪は厄介だが、雪があったからこそ、このような人に喜んでもらえる活動ができるし、地域の方々とも出会え、ふれあえた」。

広がる 除雪ボランティアの「輪」

4年前に市民有志によって発足した横手除雪ボランティアの会。横手清陵学院高校バドミントン部や横手愛宕ライオンズクラブと協力し、除雪ボランティア活動を行っています。



横手除雪ボランティアの会会長 小野宏一さん



有田雪国科学
代表取締役 佐藤 健さん

ですから、雪国の大雪は十分実感していましたので、環境への配慮と高齢者の負担を軽減、寒さと雪の克服をテーマに事業を開拓してきました。

「なぜ、こんなに降るのですか」雪による事故を耳にするたびに心が痛みます。取材を始める前、市民の皆さんなどがどれほど雪をうらめしく思っているのか気掛かりでした。

「雪を活かし、暮らしの中に受け入れ、雪を楽しみ、力を合わせて克服する」こちらの心配をよそに、取材を通して聞くことができた言葉です。

寒さに耐え、厳しい冬を乗り切ろうとする皆さんの力強さを感じることができました。

雪消えまでは、もう一息。寒い日が続きますが、豊かな恵みを信じて、春の訪れを待ちたいと思います。

●地域協議会委員名簿（敬称略・○印は会長、○印は副会長）【任期：平成18年1月28日～平成20年1月27日】

地域自治区の名称	地域及び公共的団体が推薦する委員	識見を有する委員	公募による委員
横手区	高橋ユリ子 高階ヤス子 高橋 輝男 松井 寛信 小田嶋龍一 吉成 哲夫	米谷 恭一 斎藤 純子 ○松井 敏博	鈴木 正志 佐藤 幸男 小野 正伸 ○中村 昭一 鈴木るみ子 山田 直美
増田町	加藤 勝義 沼沢 武雄 ○岩谷 寛 高橋 秀子 矢野 幸子 長里 英樹 斎藤千恵子	大石 康悦 ○片倉由美子 藤原 愛子	小原 征保 照井 喜助 七尾豊太郎 佐々木正志 藤本 友治
平鹿町	高橋 肇 小原 健 ○西成 忍 東海林智恵子 齊藤富美子	瀬田川 實 佐藤 芳知 戸部 英二 佐々木貞夫 佐野長治郎	高橋 幸雄 小杉 巍 長沢 弘治 ○大和谷道子 佐藤 俊子
雄物川町	福岡 正樹 黒政 妙子 大庭喜美子 高橋 大成 佐藤 靖子 福岡 修 小沢 秀宏 ○藤原 廣	佐野孝喜治 藤原 京子 佐藤イチ子 高橋 良昭	○加賀屋順吉 栗田 善夫 佐藤 隆一
大森町	○柴田 孝子 ○伊藤 英幸 高田 孝 菊地 一男 嵐田 良子 平元由美子	平野 豊 今野 英幸 菊地 東一 加藤美和子	本藤 荣純 佐藤 克男 太田 壽一 赤川 聰 佐々木哲也
十文字町	大木 紀子 高橋 順子 高橋 和一 柿崎 廣志 吉村 公智	○佐藤 逸郎 ○羽川 輿助 佐藤 博美 高橋 純一 大石 順子	石川 皓司 三浦 昌 斎藤 忠弘 佐々木久 熊沢 文男
山内	黒沢 義春 阿野 文夫 坂本 勇 高橋 邦生 藤田 マサ 中村 良子 ○伊藤 茂光	○佐々木周一郎 石沢 英夫 田代 忠	高橋 信夫 高橋 廣二 中村 正子 照井 幸男 土谷 久男
大雄	藤谷 久一 大日向トキ 金山 龍一 小松田 稔 山内 明美	○佐々木良文 小松 博之 黒澤 明子 小松 高義 小松田英人	○伊藤喜代美 佐々木 廣 瀧澤 將弘 遠藤 光男 手賀 利夫

☆平成18年度からは地区会議が動き出します

町内会等の自治組織を母体とした地区会議を、各地域自治区におおむね小学校通学区域単位で設置し、次のような取り組みを行います。

- ・町内会等、地区に密着したコミュニティ組織との連携を図りながら、地区に必要なまちづくり活動を行います
- ・地域づくりに必要な事業の提案や予算要望等の取りまとめを行います

◆地区会議の活動を市が支援します

(1)運営費補助・・・会議を運営する経費として、世帯数に応じて1万円から3万円を補助します

(2)ソフト事業に対する補助・・・地区会議で話し合われた取り組みに対して、20万円を限度に補助します

(3)ハード事業に対する支援・・・地区会議で決めた要望の優先順位に基づき、市が事業を実施します（例：カープミラーの設置、小規模工事等）

■地域協議会・地区会議に関するお問い合わせ先
各地域局地域振興課または総務企画部企画課（本庁南庁舎内）☎35-2164



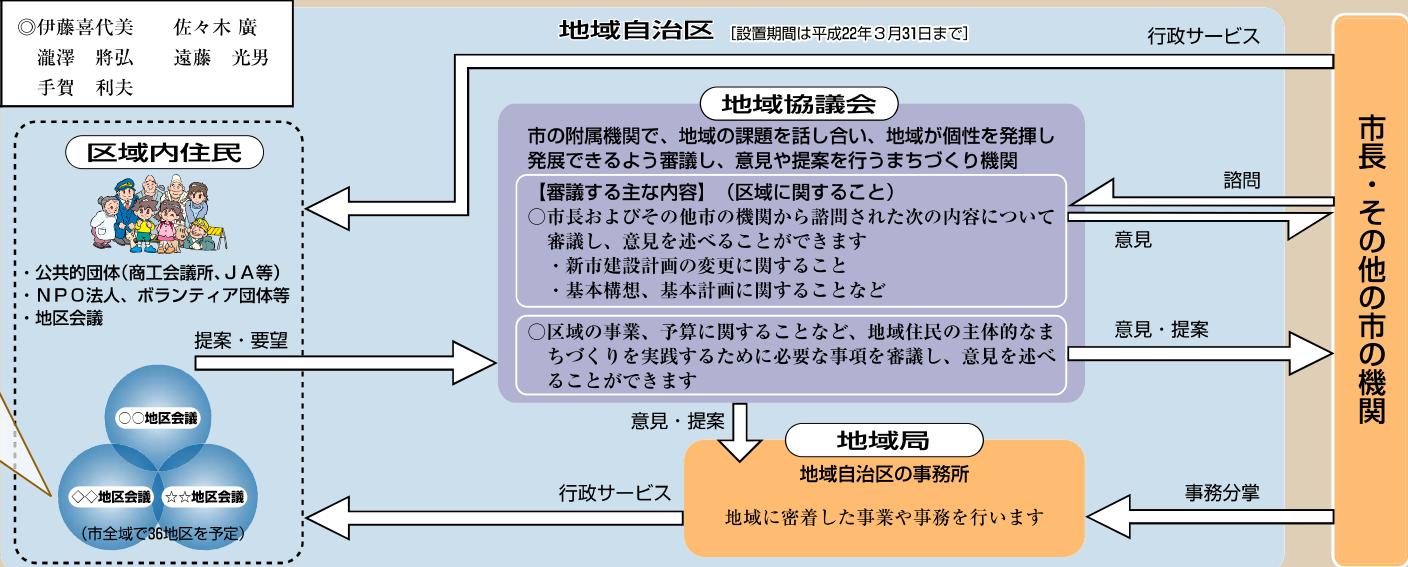
地域の声を市政に 地域協議会が発足

市民120人を委員に委嘱

新市誕生から4か月あまり、8つの地域自治区（旧市町村単位）に設置することとなっていた地域協議会の構成委員がこのほど決まり、それぞれの地域で第1回目の会議が開催されました。

会議では、各地域15人（計120人）の委員が五十嵐市長から委嘱状を交付され、協議会の概要や市の取り組みについて説明を受けた後、意見交換を行いました。今後の会議では、地域の個性や特色を生かしたまちづくりのため、具体的な話し合いが進められることになります。

地域協議会の概要



まちづくり

市民主体の活動を応援します

みんなが主役のまちづくり活動補助金

横手市では、市民活動を元気づけ、地域の活性化を図るために、合併前に大森町、十文字町および横手平鹿広域町村圏組合で実施していたまちづくり支援事業を「みんなが主役のまちづくり活動補助金」として統合し、市民の皆さんのが主体的に行う活動を支援いたします。

この制度を積極的にご活用いただき、魅力あるまちづくりにご協力ください。

■申込方法

所定の申請用紙に必要事項を記入し提出してください。用紙は市役所企画課または各地域局地域振興課で配布しているほか、市役所ホームページからダウンロードできます。

■申込み・問合せ

横手市総務企画部企画課地域調整担当
☎35-2164内線1051・1052(市役所本庁南庁舎内)
または各地域局地域振興課

詳しくは、横手市役所ホームページの企画課ページをご覧ください。(http://www.city.yokote.lg.jp)

■補助対象者

事業を実施する市内の団体等
(市民主体のまちづくり活動のうち、新規の活動や既に取り組んでいる活動を拡充しようとする場合に交付します)

■補助対象経費

補助対象事業に要する経費とし、団体等の運営経費、食糧費に相当する経費、その他適当でないと認められる経費は、補助対象外とします

■補助金額

・補助率 補助対象経費の2分の1以内
・限度額 事業1件につき50万円まで(予算の範囲内)
※事業の自立を促すため、補助金の交付期間を最長3年とします

■受付期間

前期＝3月1日～3月31日(4月から9月まで実施分)
後期＝8月1日～8月31日(10月から翌年3月まで実施分)



まちづくりは私たちが主役です！(本制度を活用し森林保全に努める大森町十日町地区環境整備実行委員会の皆さん)

市長です
こんにちは

横手市長
五十嵐
忠悦



この会の最大の特徴は、それぞれの地域が個性を發揮しながら発展するため、そこに暮らす皆さんの目線で話合いをしていただけます。地域協議会でも時間をかけ議論されてきた事項であり、個性のあるまちづくり推進に向けての体制が、徐々にできあがりつつあることを実感しました。

この会の最大的特徴は、それぞれの地域が個性を發揮しながら発展するため、そこに暮らす皆さんの目線で話合いをしていただけます。地域協議会でも時間をかけ議論されてきた事項であり、個性のあるまちづくり推進に向けての体制が、徐々にできあがりつつあることを実感しました。

この会の最大的特徴は、それぞれの地域が個性を発揮しながら発展するため、そこに暮らす皆さんの目線で話合いをしていただけます。地域協議会でも時間をかけ議論されてきた事項であり、個性のあるまちづくり推進に向けての体制が、徐々にできあがりつつあることを実感しました。

この会の最大的特徴は、それぞれの地域が個性を発揮しながら発展するため、そこに暮らす皆さんの目線で話合いをしていただけます。地域協議会でも時間をかけ議論されてきた事項であり、個性のあるまちづくり推進に向けての体制が、徐々にできあがりつつあることを実感しました。

この会の最大的特徴は、それぞれの地域が個性を発揮しながら発展するため、そこに暮らす皆さんの目線で話合いをしていただけます。地域協議会でも時間をかけ議論されてきた事項であり、個性のあるまちづくり推進に向けての体制が、徐々にできあがりつつあることを実感しました。

この会の最大的特徴は、それぞれの地域が個性を発揮しながら発展するため、そこに暮らす皆さんの目線で話合いをしていただけます。地域協議会でも時間をかけ議論されてきた事項であり、個性のあるまちづくり推進に向けての体制が、徐々にできあがりつつあることを実感しました。

この会の最大的特徴は、それぞれの地域が個性を発揮しながら発展するため、そこに暮らす皆さんの目線で話合いをしていただけます。地域協議会でも時間をかけ議論されてきた事項であり、個性のあるまちづくり推進に向けての体制が、徐々にできあがりつつあることを実感しました。

この会の最大的特徴は、それぞれの地域が個性を発揮しながら発展するため、そこに暮らす皆さんの目線で話合いをしていただけます。地域協議会でも時間をかけ議論されてきた事項であり、個性のあるまちづくり推進に向けての体制が、徐々にできあがりつつあることを実感しました。

市民みんなで盛り上げよう！



秋田わか杉国体

秋田わか杉大会



大会成功に向け一致団結 横手市実行委員会を設立



■秋田わか杉国体等に関するお問い合わせ 市総務企画部国体準備室(平鹿庁舎内)

☎35-2171

平成19年に開催される第62回国民体育大会(秋田わか杉国体)及び第7回全国障害者スポーツ大会(秋田わか杉大会)に向けて、その準備業務を推進する横手市実行委員会の設立総会が2月3日、市役所本庁南庁舎で開催されました。会長に五十嵐市長が選任され、委員にはスポーツ団体関係者など、総勢13名が委嘱されました。

なお、横手市では、国体競技としてボウリング、軟式野球、ホッケー、バーチャル大会競技としてボウリングとバレーボール(オーブン競技)が開催されます。

4人が委嘱されました。そして、開催方針や事業計画などの議案を承認し、市民総参加による大会の成功を誓いました。

第62回 国民体育大会 横手市開催方針

1. 基本方針

第62回国民体育大会は、秋田県の開催方針に基づき、簡素で効率的な中にも「温かいもてなしの心」を發揮する横手市にふさわしい国体を目指し、市民総参加のもと、その英知と情熱を結集し、新しい活力を創造しながら、全国から集う人々に感動を与える大会とする。

この大会を契機に、スポーツと文化の一層の振興と発展を図り「豊かな自然 豊かな心 夢あふれる田園都市」を目指した横手市の創造に資する。

2. 実施目標

- (1)市及び関係機関・団体との緊密な連携と協力のもとに、市民の総力を挙げて大会運営に万全を期す。
- (2)大会を契機に、生涯スポーツの推進を図るとともに、本市のさらなる躍進に寄与する。
- (3)市民運動を活発に展開し、好ましい人間関係を培い、地域の連帯を育成し、より豊かで住みよいまちづくりを一層推進する。
- (4)全国から集う人々を心から歓迎し、友情の輪を広げるとともに、人間味豊かな地域性、豊かでにぎわいのある横手市を全国に紹介する。

自慢の頭ではっけよーい

■「光頭会」番付編成会議(雄物川)

髪の毛が極めて少ない人たちで作る「光頭会」恒例の番付編成会議が1月27日、交流センター「雄川荘」で行われました。同会は「笑顔を絶やさず、沈みがちな社会を明るくしていこう」と平成3年に結成。今年、新会員1人を加え会員は14人になりました。

取り組みを前に、会歌「つるつる節」を全員で合唱。

頭を突き合わせ、色つやを競う「光頭相撲」では東の横綱、三浦六右衛門さんが貫禄を見せつけ、横綱の座を守りました。
その後、6月に行われる全国光サミットに向け、「吸盤綱引き」を実施。昨年全国一に輝いた鈴木好吉さんが圧倒的な強さで優勝を飾りました。
熱戦が繰り広げられた「吸盤綱引き」



行司が頭の光具合と色つやを虫眼鏡でチェックする「光頭相撲」



300㍍の重みを手にゴールを目指す参加者たち

幻想的な雪祭りへようこそ

■はくちょう雪まつり in jumonji(十文字)

2月5日、十文字町舍裏広場を会場に『第3回はくちょう雪まつり』が開催されました。会場では雪に親しむイベントやアトラクションが終日行われ、たくさんの来場者でにぎわいました。特に、JRA(十文字レーシングアトラクション)と名付けられた人間馬そりレースでは、特色あるチームが個性的なユニフォームで参加し、白熱の戦いを披露。夜には、ミニちょうどんかまくらや冬花火など幻想的な世界が出現し、お祭りムード一色の1日となりました。

雪遊びを体験



(大雄)

悪い鬼を追い払え！



(山内)

パズル作りに挑戦



(十文字)

スキーパスカル走



(大森)

2月5日、「大雄子どもフェスティバル」がふれあいホール周辺を会場に開催されました。会場内では、昔ながらの遊びを体験できるコーナー、スノーモービルやボンバーの引くソリ試乗体験ができるコーナーなどがあり、小雪の舞う中、雪遊びを楽しむ子どもたちの熱気で、会場内は終始にぎわっていました。

2月3日、節分の催しが市内の保育所や幼稚園で開かれました。さんない保育園では、鬼の面をつけた子どもたちに福袋がまかれ、心やお腹の中に入っている「泣き虫鬼」や「かぜひき鬼」などの悪い鬼を退治。その後、子どもたちは自分だけのオリジナル作品を作ろうと、工夫をこらしながら取り組んでいました。

1月28日、十文字総合文化センターで生涯学習の一環として行われている「物づくり教室」が開かれました。教室には小学生16人が参加し、牛乳パックを再利用してのパズル作りに挑戦。子どもたちは自分だけのオリジナル作品を作ろうと、工夫をこらしながら取り組んでいました。



できあがりをイメージしながら積み上げていきます

市内各地にかまくらを

■かまくら作り講習会(横手)

雪まつり本番を前に、かまくら作りを体験する講習会が横手市立前道路公園で行われました。

参加者の皆さん、かまくら職人の指導を受けながら作ったかまくら3基は、実際に使用される本格的なもの。全国から訪れる観光客を迎えるとあって、スコップを持つ手は自然と力が入りました。また講習には、「市全体でまつりを盛り上げたい」と、市職員も多数参加。受講後は各地域局前にもかまくらを完成させました。まつり本番となる15・16日、皆さんも最寄りのかまくらに足を運んでみてはいかがでしょうか。



恵比寿俵を奉納し、五穀豊穣、商売繁盛を祈願

勇壮に梵天と恵比寿俵を奉納

■長太郎稻荷神社梵天祭(大雄)

中島地区で2月5日、長太郎稻荷神社梵天祭が行われ、集落から5本と子ども梵天2本が奉納されました。

ほら貝の音と梵天唄にのせて練り歩き、神社に集合した若衆たちは、祭専用に作られた押し合い堂に次々と梵天を奉納。お堂の中心の板の間を梵天の脚で12回ほど突くと奉納は無事終了。休む間もなく、ほかの集落の恵比寿俵がいっせいに奉納され、お堂の入口で待ち受ける中島地区の若衆と、勇壮なもみ合いが繰り広げられ、境内は雪も解かず熱氣があふれました。

ほし餅づくり最盛期



(雄物川)

スキーを満喫



(平鹿)

地域づくりを考える



(増田)

横手の冬を満喫



(横手)

上西野地区では、冬の風物詩ともいえるほし餅づくりが最盛期を迎えています。餅を木枠にのばして1週間ほど自然乾燥させ、4センチ四方に切り分けて20個ずつもじで結びます。いつたん冷凍庫に入れた後、風通しのいい乾燥小屋で約1ヶ月つるし、水分を抜けば完成です。作業は3月いっぱいまで続きます。

増田地域センター運営協議会が主催した「地域づくりシンポジウム」が2月5日、増田ふれあいプラザで開かれました。アドバイザーとして五十嵐市長を迎えて、住民代表がそれぞれ熱い地域づくり論を展開。集まった約20人の参加者は講師の平鹿町スキークラブの指導に熱心に耳を傾け、スキーを楽しんでいました。

1月28日からの2日間、仙台市発着で横手の生活を体験するバスツアーが行われ、参加した皆さんは、かまくら作り体験や温泉、横手やきそばなど、横手ならではの魅力を感じました。このツアーや横手市観光協議会が企画したもので、当初の予定を上回る参加申込みが寄せられるほどの好評ぶりでした。

講習・講座



若年者就職促進訓練 受講生募集

若年の方を対象に、専門学校での座学訓練と企業での職場実習を組み合わせて実施し、関連資格の取得と実践的技術の習得を目指す新しい公共職業訓練です。特に企業での職場実習で身に付く実践的な技術で、就職活動を有利に進めていくことを目的としています。

対象者
35歳以下の求職者

コース
情報ビジネス、情報事務、ビジネスプレゼンス、建築CAD、建築機械CAD

受講料
無料

問合せ
田セントラル

☎ 018(836)3187
または最寄りのハローワーク

雇用・能力開発機構秋田セントラル

た、「グループかぜ」の皆さんによる童謡と童話のつどいも同時に開催します。お気軽にご参加ください。
日時 2月24日(金)
場所 横手保健センター(すこやか横手内)
申込み 2月22日(水)まで
受講料 無料(託児あります)
市子育て支援センター なかよしへ
☎ 351-7227



いどばた プラザ

市民主催の催し等をお知らせするコーナーです

ドイツ語会話初級

歌やゲームを通してドイツ語を楽しみましょう!
日時 2月23日(木)午後7時~9時
※毎月2回、木曜日午後7時~9時開催
場所 あさくら館
受講料 1回500円
問合せ 武藤☎ 090-5591-5307

横手おやこ劇場 第51回鑑賞活動「いつかきっと」

日時 3月4日(土)午後6時30分開演
場所 サンサン横手
公演 劇団風の子
参加費 会員制(入会金200円、月会費800円)
※当日に限りご参加の方は3,000円
問合せ 横手おやこ劇場☎ 33-0812

歌の好きな人集まれ! 思いつきり歌声喫茶

卒業写真、贈る言葉、ほか数曲を予定
日時 3月9日(木)午後7時開演
場所 レストラン煉瓦屋(寿町)
参加費 1,000円(軽食付き)
問合せ レストラン煉瓦屋☎ 33-2811

自然を愛する皆さんの集い

宮川貴子さんによる公演「春を呼ぼうよ」と
マンドリン・ギターデュオコンサート
日時 3月19日(日)午後1時開演
場所 レストラン煉瓦屋(寿町)
入場料 800円(軽食付き)
問合せ レストラン煉瓦屋☎ 33-2811

市民の皆さんからの「いどばたプラザ」への情報提供をお待ちしています。
各種催しの参加者募集などにご活用ください。

保育士・保健師・栄養士・調理師・介護士 サポート隊への登録をお待ちしています

保育士、保健師、栄養士、調理師、介護士として働いている市職員が、出産や育児、病気等の理由により長期休暇を取得する際に、臨時のにお手伝いしていただける方を募集しています。市の各施設等で求人が生じた場合に、登録者の中から書類選考し、面接を経て職務にあたっていただきます。

■応募資格

保育士、保健師、栄養士、調理師、介護福祉士、ホームヘルパーのいずれかの資格をお持ちの方で、要請に応じて随時勤務することが可能な方

■報酬

雇用時に、職種、勤務時間に応じて決定します

■登録方法

市販の履歴書に記入し、市人事課へ提出してください
■申込み・問合せ

〒013-8601 横手市前郷字下三枚橋163
市役所本庁南庁舎 市総務企画部人事課人事研修担当
(旧横手平鹿広域交流センター内)
☎ 35-2163

締め切りが近づいています 増田町観光写真コンテスト

増田町観光協会では、観光写真コンテストの出展作品を募集しています。増田らしさと風情ある写真をお寄せください。なお、募集内容や応募方法等、詳細は市役所増田地域局産業振興課のホームページ(http://www.city.yokote.lg.jp/kakuka/tiiki_masuda/sangyouusp)をご覧ください。

■締切り

3月10日(金)必着

■問合せ

増田町観光協会☎ 45-5515

お詫び申し上げます。
関係者の皆様に、心より
お詫び申し上げます。
市報よこて2月1日号に
誤りがありました。
訂正とお詫び
のコチラの中、田口祥さん
は田口翔さんの誤りでした。
た「プラザ」のコチラで、
催しの開催日時や問い合わせ
先電話番号等に誤りがあ
りました。

おしゃえて!こどものじこじこ 育児講座

横手胃腸科クリニックの高橋正樹医師を講師に迎え、心療内科の立場から子どもの心をテーマに講演していただきます。ま

応募資格
年齢
本国籍を有する方

平成18年4月1日現在
在満18歳以上30歳未満
海外や洋上で、世界各国の青年
年と交流し、相互理解を深めながら、グローバルな視野と国際協調の精神を身につけてみませんか。

海外派遣(国際青年育成交流、日本・中国青年親善交流、日本・韓国青年親善交流)

世界青年の船
東南アジア青年の船

問合せ
募集期間

3月1日(水)
県県民文化政策課
☎ 018(836)1552

※日程等、詳しくはお問い合わせください。
せください。

募 集

内閣府青年国際交流事業
参加者募集

ご活用ください「生涯学習だより」生涯学習サークルを募集します

市教育委員会では、「芸術活動やスポーツにチャレンジしてみたいけど、市内にはどんなサークルがあるの」といったお問い合わせや「ボランティア活動を始めるのに仲間を集めたいんだけど」といった要望にお答えするため、生涯学習に関する情報をまとめた冊子「生涯学習だより」「やってみねしか 生涯学習」を4月上旬に配布します。

この中では、これまで自主サークルや自主運営講座、あるいは社会教育認定団体などの名称で活動していたサークルを「生涯学習サークル」として紹介し、それぞれの活動内容を広く市民の皆さんにお知らせしますので、新しい仲間作りの場としてご活用ください。掲載を希望する場合は、所定の申込書を提出していただく必要がありますので、市生涯学習課またはお近くの生涯学習センター、公民館までお知らせください。

申込期限 2月28日(火)

配布場所 市役所、生涯学習センター、

公民館、体育館、図書館など

の生涯学習関連施設

問合せ 市教育委員会生涯学習課

(雄物川庁舎内) ☎ 22-2155



笑顔がいっぱい



思えれば遠くへ来たもんだ

No.4

大雄地域
高橋文子さん(52歳)

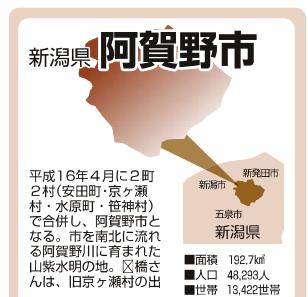


新潟県阿賀野市出身。
母・夫の3人家族。

高橋さんは、新潟県の瓢湖といふ湖に近い阿賀野市の出身です。23歳の時、友人の勧める会社に勤務していた夫の敏文さん（大雄村出身）と知り合い結婚。それを機に敏文さんの実家がある大雄での生活を始め、もうすぐ30年目を迎えます。

現在は、市内のスーパーに勤めるかたわら、趣味で始めたという手話を子どもたちに教えています。「手話を覚えるきっかけは、職場にろうあの方が多いことです。とにかく話をしてみたくて、一念発起して県の講習を受けたり、手話のサークルに通つたりして勉強

しました」今では、日常会話程度はできるという高橋さん。スポーツ大会やイベントなどがあると、ボランティア要員として県外にでかけることも少なくないそうです。「初めてこの土地にきたときは、方言がわからず苦労しましたが、手話にも方言があり、地方に行くと、その人特有の手話があります。方言を教え、疎通ができたとき、手話をやって良かったと感じます」と話す高橋さん。第二のふるさとなつたこの横手市で、大好きな手話の楽しさを伝えていきたいと話す笑顔が印象的でした。



読者プレゼントにご協力を

市報よこてでは、市内業者の皆さんへ「読者プレゼント」へのご協賛をお願いしています。

横手市内にあるたくさんの特産品や名産品を市報を通して市民の皆さんに知っていただくと共に、市内全世帯に配布される広報紙を活用した商品の宣伝に、ぜひ市報よこてをご活用ください。

■連絡先 秘書広報課：広報広聴担当（☎35-2162）

○お便りをお寄せください。

編集後記

◆他県の人に「秋田のどこにお住まいですか」と聞かれると必ず「かまくらで有名な横手市の近くで」と説いてきました。もうその必要はありませんね。自分の街のままでいいと思います。（撮影：高橋さん）

◆国体の実行委員会が設立されました。過去にある場所を自指したことのある場を一人として、地元での撮影には雪祭り行事が目白押しです。この雪が降らなければ、熱戦が行われます。この上手に…と喧嘩が、熱気みなぎる会場がわざわざ見ています。この雪が降らなければ、熱戦が行われます。この雪が降らなければ、熱戦が行われます。（小吉）

TAKUMI
たくみ

【其の四】

十文字和紙職人
佐々木清男さん(62歳・十文字)



目標は親父の和紙

静寂の中、紙を漉く規則正しい音が作業場に響く。強く薄く、美しい風合いの和紙を県内で唯一、手作業で作り続けている巧がいる。

「和紙作りはとかく手数の多い仕事。の中でも紙漉きは最も鍛錬の必要な作業。様々な和紙を作ってきたが、親父の作品にはほど遠い」

生活様式の変化とともに和紙の需要は大きく減少したが、手作りの風合いと温かみがある十文字和紙には愛好者も多く、十文字西中学校では卒業証書に和紙を使用し、数多くの卒業生に手渡している。また、平成19年に開催される「秋田わか杉国体」でも、表彰状の一部として採用される予定である。

「自分の作った和紙がどのような形で使用されるにしても、手作りの良さが伝わる、喜ばれる和紙を作り続けたい」

小さな傷ひとつ許さない職人の眼差しと確かな技術。職人が漉く和紙は、人々の心に「和」のやすらぎを与えることだろう。



昭和19年に十文字町に生まれる。47歳の時、和紙職人であった父が亡くなり、この時から本格的に和紙作りに取り組む。「文字和紙職人3代目。